

達の手をとらずに独居できるよう祈りつつ毎日過ごしていますが、何しろ5月2日がくれば、92歳。自分一人をもてあましております。
和子さんは、行き届いた愛情あふれる介護のもと、今生を送って居れるのは幸せと思っていることでしょう。わたしはそう思っています。かくり世の母もけんめいに守っていてくれるのでしょうか。皆さんの愛に包まれて「今」を生きても良くしていただいているとか・・・皆さんの愛を感じております。
有難う！！。有難う！！。幾度お礼を云ってもわたしの思いは届けられません。が。「ありがとう！！！！」。あなたもお体大切にお過ごし下さいね。

1月19日 P/M 5..26



(三) 生きてし止まむ

『古事記』、神武天皇東征説話の「久米歌」の一節には、
「みつみつし久米の子が：我は忘れじ撃ちてしやまむ」、
とある。

「撃ちてしやまむ」は、
「敵をやつつけるまでたたかい抜くぞ」、
の意で、「まつろわぬもの」達を平らげる武人の心意気である。

戦争中は、これが、戦意高揚のスローガンとして大々的に使われた。
当時の軍国少年、少女の胸の中には、いまだに、このスローガンが澱おとのよう
に沈よわ殿いしている。

齢よわ重ねて、老々在宅介護の厳しい日々。
その胸の中には、「撃ちてしやまむ」が、「生きてしやまむ」、と、なっ
て息づいている。